

# 豊中の未来を描こう！！

発行 2011年8月

VOL. 58

熱中症  
脱水症状には  
ご注意ください！！

豊中市議会議員  
無所属・未来派

かんばらこういちろう

## 神原 宏一郎の つながり通信

～生活・社会そして人・・・すべては政治とつながっている～



### 関心・期待感・信頼感を抱く政治へ

#### ◆ 2011年度の文教常任委員会視察報告！！ ◆

##### ～若年層への総合的支援について～

＜7月11日：神奈川県横浜市＞

ひきこもりやニートなど困難を抱える若者への自立支援の取り組みを実施。

- ・「青年自立支援研究会」
- ・「地域ユースフラザ」
- ・「よこはま型若者自立塾」
- ・「横浜市子ども・若者支援協議会」



全国では15歳から30歳代前半のニートが約64万人おり、関係機関に関わっている人が約4万人と6%強しかない中で、横浜市ではニート約1万人強のうち、2～3割は行政機関と接点があり、一定の割合で就労に結びついており、効果があると感じました。

一方で、現在は国のモデル事業として、国からの補助金で事業が実施されており、自治体単独で事業を継続実施していくことが難しいこと、学校・福祉・雇用など様々な分野の機関や団体とのネットワークの強化が必要であるなどの課題も見えました。とは言え、最近では若年層の生活保護受給者も増加傾向にあり、働ける世代がしっかりと働ける環境づくり、支援強化は豊中市でも求められています。

##### 【 視察を終えての感想 】

税金で行っている視察です。

視察で学んだ事を豊中市に活かすよう努めなければなりません。移動方法・行程などを工夫することで、より内容の濃い視察ができると感じました。

また、今回は上述の視察費用で、東日本大震災の被災地支援・視察を行っても良かったと思います。

##### ＜文教委員会視察費用＞

交通費	¥30,060
宿泊料(夕・朝食込)	¥15,100
公費支出合計	¥45,160
昼食代(お弁当代等)	¥1,050
夕食時の飲み物代	¥2,505
視察先へのお土産代	¥525
個人支出合計	¥4,080

##### ～地産地消と食育について～

＜7月12日：神奈川県平塚市＞

地元の農産物や魚を学校給食に使用し、生産者を招き、話を伺ったり、一緒に給食を食べたりする「ふれあい給食」を実施。

「苦手な食材を児童が食べられるようになる」、「生産者や食そのものへの感謝の気持ちを持つ」、「地域の農水産業に対する理解が深まる」などの効果がある「ふれあい給食」の様子を見学。

おかわりする児童が多く、ご飯もおかずも残菜はほぼゼロでした。平塚市では給食の食べ残しを抑制するために、給食センター方式の学校でも自校方式の学校でも給食の調理員が各教室で、食材や調理方法について話をすることで食べ残しの抑制につなげています。現在の豊中市の給食の残菜率は12～13%で、平塚市の8～10%に比べ高いのですが、このような取り組みは豊中市でも導入を検討すべきです！！



### 被災地ボランティア



まだまだ、被災地の復興、被災者の方々の生活再建には時間と人的・経済的支援が欠かせません。可能な範囲での支援を今後もしていきたいと思っております。

瓦礫・土砂撤去の様子

# ◆ あなたは損する世代、得する世代! ? ~世代間格差は1億2000万円!! ~



## 世代間格差は1億2000万円!!

社会保障費として税金や保険料を払った額や背負った借金の額と、年金や社会福祉などのサービスとして受け取れる額の差(受益と負担の差)が世代によって大きく異なっています!! 内閣府の発表では60歳以上の世代と20歳未満の将来世代では約1億2000万円!! さらに、40歳代以下の世代は払った額よりも受け取る額の方が少なくなるというのです!!

## 働いても、働いても収入は減り続け…(泣)

国税庁の発表では、民間企業のサラリーマンの平均年収は、約10年間減少し続け、2009年には406万円に…。

	受益	負担	受益-負担
60歳以上	1.87	1.47	0.4
50歳代	1.79	1.68	0.11
40歳代	1.59	1.61	-0.02
30歳代	1.41	1.48	-0.07
20歳代	1.18	1.29	-0.11
将来世代	1.18	2.01	-0.83

将来を担う世代、支える世代へのツケや負担の軽減を考えると、現役世代の受益の抑制や負担の引き上げが少なからず必要ではないかと思うのですが…



# ◆ 何かおかしい…!? 福祉政策アラカルト

## 【老老介護が増え、居宅介護が減るのは当然】

高齢者同士で介護をするいわゆる老老介護が増し続けています。また、要支援・要介護の高齢者が一人で暮らす「単独世帯」も増加し続けています。一方、居宅介護をする割合は増えません。私は、単独世帯の方が生活保護を受給しやすい一方、居宅介護の方が介護保険を受けにくい制度的な問題が一因だと考えます。家族や親族が介護をもっとしようと思えるような制度の構築をしない限り、老老介護の増加、居宅介護の減少とともに、税金の支出は増え続けるのではないのでしょうか。



## 【国民年金保険料の納付率は下がって当然】

国民年金保険料の納付率は60%を下回りました。保険料を払い続けるより、個人で貯蓄・運用した方が得だと思える人が増えているようです。保険料を払った分は確実に支給が受けられる保証、払ってる人と払ってない人、既に年金を受けている人とこれから年金を受ける人の格差の解消無しに、納付率の向上は望めません。

## 【最低賃金<生活保護費って! ?】

最低賃金で働くよりも生活保護での収入が多い「逆転現象」が、全国で拡大しています。この状態を早急に解消しなければ、一旦生活保護を受給した人の就労意欲は上がり、現在働いている人の中にも、働くことが馬鹿らしくなり、生活保護を受けた方が得と考える人が増えるかも知れません。生活保護費以下の最低賃金就労者の労働条件の改善が望まれますが、実際のところ生活保護費の額は、人間が最低限度の生活を行うための妥当な額が設定されているのでしょうか。

## 【資産を無視した貧困統計は問題あり】

日本の「相対的貧困率」が16.0%で、増加傾向とのこと。しかし、この相対的貧困率には個人資産について考慮されておらず、所得だけで貧困と判断することには大いに疑問があります。個人の資産を度外視して所得だけを見て生活困窮者と見なし、様々な手当や支援に税金を投入し続けることは疑問です。

ご批判やご不満をお持ちになる方もおられると思います。

それでも、今日の社会・経済状況・財政状況を考え、何より子どもや孫の世代にツケを回し、負担を押しつけるべきではないと思えば思うほど、現在の福祉政策には様々な疑問が生じるのです…。

## 発行元 前向きひろば ~Positive Square~

〒560-0021 豊中市本町 3-1-20 エルビル 2 階

TEL & FAX: 06-6854-5664

平日(祝日は除く)の 10時から 17時はスタッフがおります。

young\_spiritjp@yahoo.co.jp

http://www.geocities.jp/positive\_square/

「つながり日記」毎日 HP で更新中!!

※ご希望の方には通信を無料でお届けします。お気軽にご連絡ください。



## 前向きひろば 神原宏一郎 事務所

